第三講・説明的文章①

◆段落の要旨

文章を組み立てている一つ一つの内容のまとまりを「段落」といいます。段落には、次の二つがあります。

形式段落　一字下げて行がえになっているひとまとまり

意味段落　いくつかの形式段落が集まった大きな意味のまとまり

説明文を読むうえでは、各段落で筆者が言おうとしていることの中心をとらえることが大切です。

(1) **段落の話題をとらえる。**

まずは、その段落がどんなことについて述べたものかをとらえます。話題は、問いかけの形で示されることがよくあります。

(2) **段落の要点をとらえる。**

段落の要点をとらえるには、「内容をまとめた文（キーセンテンス）」と「具体例を述べた文」とを区別して読む必要があります。段落の中心となるのは「内容をまとめた文」なので、「内容をまとめた文」を、キーワードを手がかりにしてとらえます。

・キーワード…話題の中心となる重要なことばです。話題を示す文をはじめ、何度も使われます。

(3) **要旨をまとめる。**

段落の内容をまとめます。(1)でとらえた話題に合う形で、キーワードや「内容をまとめた文」の表現を使ってまとめれば、中心となることがはっきりするようにまとめることができます。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1　㋐人間にとって一生のうちで、いちばん大事な時期はいつごろでしょうか。㋑これは＊1愚問かもしれません。㋒人生のなかで大事でない日などというのは、一日たりとてないからです。㋓けれど、いちばん幸福な日々はいつかと問われたなら、私は確信をもって、少年時代、と答えます。㋔むろん、何をもって幸福と言うか、その考え方はさまざまでしょう。㋕しかし、私自身、自分の五十年にわたる歳月をふりかえってみて、ちゅうちょなくそう断言できるように思います。

2　と言っても、その少年時代に私は自分が幸福であるなどとは少しも思いませんでした。おそらく、だれでもそうでしょう。少年のころ、あるいは少女のころは、自分が幸福だなどと思わないくらい幸福なのです。たとえ、どれほど苦しい環境にあっても、です。

3　なぜなのだろう、と私はときどき考えます。＊2端的に言えば、何につけても夢中になることができるからではないでしょうか。

4　そんなことはない、大人になってからでも夢中になれる、と言うかもしれません。たしかに夢中になれるでしょう。けれど、その夢中になるなり方がちがうのです。少年のころは、まったく我をわすれて＊3没頭できる。純粋に夢中になれる。しかし、大人になると、たとえ何かにどれほど夢中になっても、かならずほかのことへの配慮が働いています。ほかのことが気になりつつ、あることに熱中しているにすぎません。

（森本哲郎「ことばへの旅」）

＊1愚問＝おろかな質問。
＊2端的に＝てっとりばやく。
＊3没頭＝一つのことに夢中になること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一 **1** 段落(だんらく)で、筆者のいちばん述(の)べたいことが、まとまった形で書かれている一文を、㋐～㋕から選び、記号で答えなさい。

問二 **1** 段落の要点を三十字以内でまとめなさい。

問三 **2** 段落で強調されていることとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 筆者の少年時代があまり幸福ではなかったということ

イ いつが幸福な時代かはだれも知りえないということ

ウ 苦しい環境ほど本当は幸福なのだということ

エ 少年時代がいかに幸福であるかということ

問四 **4** 段落は、少年時代と大人になってからのことが、くらべる形で書かれています。それぞれの時期の、何かに夢中になるなり方を、三十字以内でまとめなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（1～5は意味段落の番号を表します。）

1 A「友情」というものがちゃんと成立するには、タイミングが必要です。

B小学生時代はついにそういう関係はなかったとか、中学三年間通して一度も友情と言えるものがなかったということもあり得るのです。

Cでも、それは誰が悪いわけではなくて、相性がよくなかったとか、あるいは自分自身にそういう高め合うような友だち関係を維持していくメンタリティー、心のあり方がまだ備わっていなかったということなのです。

2 その友情というのが、①一つの友だち関係の中の非常に「向上心にあふれた部分」だとすると、現在の世の中では、もう少し「ゆるい友だち関係」というのも必要ではないでしょうか。

一人親友がいて、友だちはその人だけというとちょっと幅が狭いと言えます。今の人が求めているのは「浅く広い関係性」です。*1メル友くらいの感じです。

3 メル友が百人、二百人いる人はざらにいるようですが、やはり現代は②携帯電話によって人間関係が大きく変化していて、一人でいる時間でも、友だちとゆるやかにつながっている感覚を持ち得るのです。

勉強していたり音楽を聴いている時に、常に携帯が側にあり、携帯なしではトイレにも行けない。それは、携帯がなかった世代からすると携帯に*2依存しているように見えますが、でもこの時代に生きていくには、携帯なしでは辛いのです。

なぜかというと、夜遅くの電話のように相手に迷惑をかけずに、簡単に意思を伝えられるというのは、非常に便利なことです。「今、○○をテレビでやっているから見ろよ」というような、昔ならばかばかしくて電話では言えないことでも、メールならば気楽に言えるし、常に人とつながっている感覚が持てるのです。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

そういう意味では、昔よりも「友だち力」というものが維持しやすい条件は整っていると言えるでしょう。

4 友だちを維持しやすい条件は整っているのですが、逆に、メールが来ないと不安になったりします。メール依存症に近いものです。

友だちとつながっていない状況、連絡が来ない状況が三日も続くと、不安で頭がおかしくなりそうになるのです。

③かつて私は、友だちが全くいないという時期がありました。とても仲の良い友だちはいたのだけれど、一週間誰とも会わないとか、ほとんど話をしなかったという状況が、十代の終わりにはあったのです。そういう時期を過ごした経験からすると、二、三日誰からも連絡がないと心配になるということはなかったと思います。

5 最近の人は、ふだんからゆるやかなセイフティーネット＊3のようなものを、携帯のネットワークで張っているようです。これは、心を安定させるには、それなりに有効な手段だろうと思います。

お互いに好きなものがあると、「あれ見た」とか、「あれ食べた」とか、「あそこに行った」というような話題をメールして、コミュニケーションをとっていく。

こういうゆるやかなつきあいをしていくのも、④一つの友だち力と言えます。また、こういうつきあいが苦手で、たくさんの友だちとはつきあえない人もいます。でも数は少ないけれど話せる人はいるし、それで満足できるという人は、これはこれで「友だち力」があるということになります。

（齋藤孝『友だちいないと不安だ症候群につける薬』）

＊1メル友＝メールをやり取りする友だち。
＊2依存＝他のものにたよって存在すること。
＊3セイフティーネット＝万が一のときに最悪の事態にならないようにする仕組み。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　**1** 段落で、筆者が最も言いたいことが書かれている一文は------線Ａ～Ｃのうちどれですか。記号で答えなさい。

問二　**2** 段落の要旨(ようし)をまとめた次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

現在世の中の人が求めているのは、□□□□□□□である。

問三　――線①「一つの友だち関係の中の非常に『向上心にあふれた部分』」とは、つまりどんな関係のあり方をいったものですか。文中から十二字で書きぬきなさい。

問四　――線②「携帯電話」を持つことの欠点について述(の)べているのは何段落ですか。段落番号で答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線③「かって私は」で始まる形式段落は、4段落の中でどんな役割を果たしていますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　前で述べたことに反する自分自身の経験を紹介し、別の可能性を説明している。

イ　前で述べたことが、誰にでも起こりうるものだということを自分自身の経験もまじえて説明している。

ウ　前で述べたことに反する自分自身の経験を紹介しながら、何が起きるかわからない状況を説明している。

エ　前で述べたことが、現代に特有のものだということを自分自身の経験を通して説明している。

[　　]

問六　――線④「友だち力」とは、ここではどんな能力のことですか。次の文の[　]にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

携帯電話をセイフティーネットとして使い、友だちと[　　　　　　　][　　]をする能力。

問七　5段落につける小見出しとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　友だちとのつきあいが苦手な人

イ　浅く広いゆるやかな友だち関係

ウ　メールによるコミュニケーション

エ　楽しい話題で友だち力をつける

[　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　説明的文章①

一題目

問一　㊁

問二　（例）人生のなかでいちばん幸福な日々は少年時代である。

問三　エ

問四　・（例）少年のころは、まったく我をわすれて純粋に何かに没頭できる。
・（例）大人になると、ほかのことが気になりつつ、あることに熱中する。

二題目

問一　A

問二　ゆるい友だち関係

問三　高め合うような友だち関係

問四　4

問五　エ

問六　ゆるやかなつきあい

問七　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。